

## 年齢引き下げの影響

- 多くの報告がなされているが、最も多いのは年少者による飲酒運転関連事故数や事故による死亡者数の変化である。
- 一部の例外もあるが、多くの研究で年齢引き下げにより、事故数や死亡者数が増加したことが確認されている。
- あるメタ分析によれば、これらの増加の中央値は10%であったという。
- 年齢引き下げに伴い、関連する年少者の飲酒量も増えたことを報告する研究も多数存在する。

## 米国のその後の動き

- 年少者の飲酒運転関連事故数の増加を受けて、1970年代後半から1980年代初めにかけて、年齢を引き下げた多くの州で年齢を元の21歳に引き上げた。
- これらの州のうち複数の州で、年齢引き上げに伴う年少者の飲酒関連事故数の減少が報告された。
- 1984年に連邦政府は、年齢引き上げに抵抗する州の高速道路補助金の一部をカットする法律を制定したため、1988年までにすべての州で飲酒可能年齢が21歳に引き上げられた。



# 飲酒可能年齢の上昇前後における高校生30日間の 平均飲酒日数

